

報道関係各位

診断と治療を一体化する新たな医療技術「ラジオセラノスティクス」の進展を発信 3月11日 第3回公開シンポジウムをオンデマンド開催 国内外トップクラスの研究機関から講師を招き、さらなる研究連携を目指す

京都薬科大学（京都市山科区）は、2022年3月11日（金）13時から「受容体特異的画像化技術を基盤とするがん放射線内用療法（ラジオセラノスティクス）研究拠点の形成」（※）に関する事業について、公開シンポジウムをオンデマンド開催します。本事業は「平成30年度文部科学省 私立大学研究ブランディング事業」（2018～2020年度）の支援対象校として採択された事業であり、その基盤を生かし、本シンポジウムを通して、さらに国際協調を見据えた大学・研究所間連携を展開させていくことを目指しています。

本事業における公開シンポジウムは、2019年3月と2021年3月に開催し、今回で3回目となります。今年度は、イメージング技術を活用した研究や臨床応用について、国内外におけるトップクラスの研究機関から講師を招き、最新の研究活動について紹介していただきます。

薬学部を擁し、カナダでトップクラスの大学である「アルバータ大学」と、日本における放射線医学研究のトップ機関である「量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所」からの講演、および本学で進展してきた共同研究などについての講演をプログラムしています。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑みて、オンデマンド配信により開催することとしました。

「ラジオセラノスティクス」は、微小がんの病巣可視化からシームレスにがん治療へと移行できる、つまり“診断と治療を一体化する”新たな医療技術として、核医学の領域で今後の発展が最も期待されているがん治療法のひとつです。本学では、小動物に投与した放射性同位元素（ γ 線放出核種）を世界最高水準の精度で高感度に測定する装置 SPECT/CT（ベルギーMOLECUBES社製）を2018年に日本で初めて導入。さらに、ドイツやベルギーなどの国際共同研究機関と協働し、撮像条件の最適化や SPECT 装置である γ -CUBE 専用の高エネルギー用コリメータの開発などを進めてきました。これらの研究基盤を活用し、がんセラノスティクスを目指した化合物創製とイメージング研究や、iPS細胞技術との融合によるパーキンソン病の病態解明などを中心に研究を推進しています。

今後も引き続き、本事業で構築してきた研究基盤を戦略的に活用し、「ラジオセラノスティクス」の普及や様々な治療への応用を目指すとともに、本シンポジウムを契機に大学・研究所間のさらなる連携を進めていきたいと考えています。

本シンポジウムの実施概要は次頁の通りです。

（※）京都薬科大学は、本学が持つ優れた研究基盤をもとに放射線内用療法 radio-theranostics 「therapeutics（治療）+diagnostics（診断）」研究拠点を構築・機能させ、次世代がん研究を本学のブランドとしていくことや、本成果を突破口として、「先進的な研究に支えられた薬学のプロフェッショナルの育成を追求する大学」として“京薬ブランド”を世界に発信することを目指しています。

【 第 3 回公開シンポジウム 】 実施概要

配信日時 : 2022 年 3 月 11 日 (金) 13 時~3 月 31 日 (木) 17 時

開催形式 : Web オンデマンド配信
質問および回答はテキスト形式 (視聴申込者へ質問受付フォームを送信)

視聴方法 : 事前申込制
下記 URL または QR コードよりお申込みください。後日、ご登録いただいたメールアドレスに視聴用 URL をお送りします。

<https://forms.office.com/r/cHjzz6EnJ2>



申込期間 : 2022 年 3 月 11 日 (金) 13 時~3 月 31 日 (木) 13 時まで

プログラム :

- ・開会の辞 京都薬科大学 副学長 赤路 健一
- ・招待講演

「Synthesis of bone-targeting peptide hormone analogues and in-vivo pharmacodynamic evaluation using micro-computed tomography」

Dr. Michael R. Doschak, MSc, PhD / Professor and Assistant Dean, International (University of Alberta, Edmonton, Alberta, Canada)

「セラノスティックスと核医学治療・標的アイソトープ治療 —国内の現状と展望—」

東 達也 分子イメージング診断治療研究部 部長
(量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所)

- ・学内研究紹介

「イメージング技術で繋ぐ京都薬科大学での共同研究」

高田 和幸 (京都薬科大学 統合薬科学系)

「セリン修飾を用いた新規腎臓ターゲティング型ドラッグデリバリーシステムの開発と

その腎臓疾患治療ならびにセラノスティクスへの展開」

勝見 英正 (京都薬科大学 薬剤学分野)

- ・閉会の辞 京都薬科大学 研究科長 斎藤 博幸

本件に関するお問い合わせ先

京都薬科大学 企画・広報課

担当: 山口・谷垣

TEL: 075-595-4691 FAX: 075-595-4750

kikaku@mb.kyoto-phu.ac.jp